

オーダースチールドア（片開き）

www.r-toolbox.jp

toolbox

目次	
安全上のご注意	1
施工前の確認	2
施工方法	5
施工後の確認	10

安全のために必ずお守りください

取り付け前に、この説明書をよくお読みのうえ、正しく取り付けを行ってください。
ここに示した注意事項は、製品を安全に取り付け、あなたや他の人々への被害や損害を未然に防止するためのものです。誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので必ず守ってください。

本文中に使われている図記号の意味は次の通りです。

- 
警告

警告を無視した取り扱いをすると、
死亡や重症などの重大な結果に結びつく可能性があります。
- 
注意

注意を無視した取り扱いをすると、
物的損害を被ったり、傷害を負う可能性があります。
- 

気を付けなければ
いけない注意事項
- 

やってはいけない
注意事項
- 

しなければいけない
強制事項

株式会社 TOOLBOX

URL www.r-toolbox.jp
E-mail contact@r-toolbox.jp

安全上のご注意

設置前にご確認ください

ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果（傷害、物損）に結びつくおそれがあります。必ずお守りください。

警告

-  本製品は内装用建具です。用途以外で使用しないでください。
-  建具本体は重量があります。施工時は複数人で作業してください。
-  ガラス施工時は保護具を着用してください。
-  建具の吊込み作業中は、建具の転倒や落下に十分注意してください。
-  施工不良は建具の脱落や破損、けがの原因となるため、施工図および本説明書に従って施工してください。

注意

-  搬入時に角部をぶつけないでください。
-  建具を立て掛けて保管しないでください。
-  水濡れを避けて保管してください。
-  調整する時は、必ず手回しドライバーで作業を行ってください。
ねじが空回りして、ドアが落下・転倒するおそれがあります。

製品について

本製品は工業製品としてのスチールの素材感を活かした内装建具です。
溶接痕や素材由来の表情を意匠の一部として設計しています。

■ 2種類の仕上げ

錆止め塗装仕上げ

スチールに防錆塗装を施した仕上げです。
表面の細かな傷や溶接痕は製品特性として残る場合があります。

クリア塗装仕上げ

スチール素地にバイブレーション加工を施し、クリア塗装で保護した仕上げです。
加工方向や溶接部の表情、素材由来の色差は製品特性となります。

- 以下は製品不具合ではありません。
- ・素材由来の色差
 - ・溶接痕
 - ・微細な擦り傷
 - ・研磨方向の個体差
 - ・経年変化による風合いの変化

■ 錆について

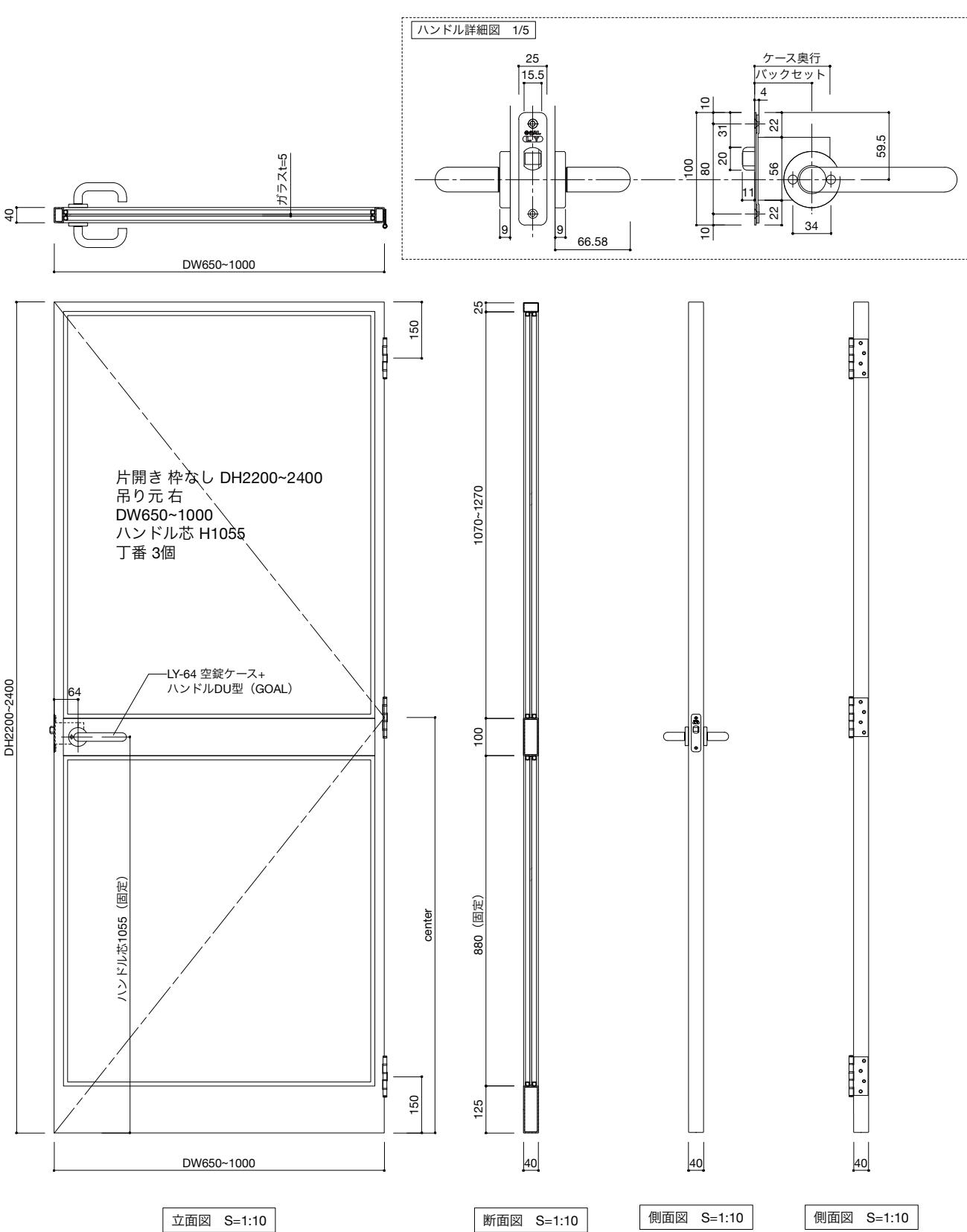
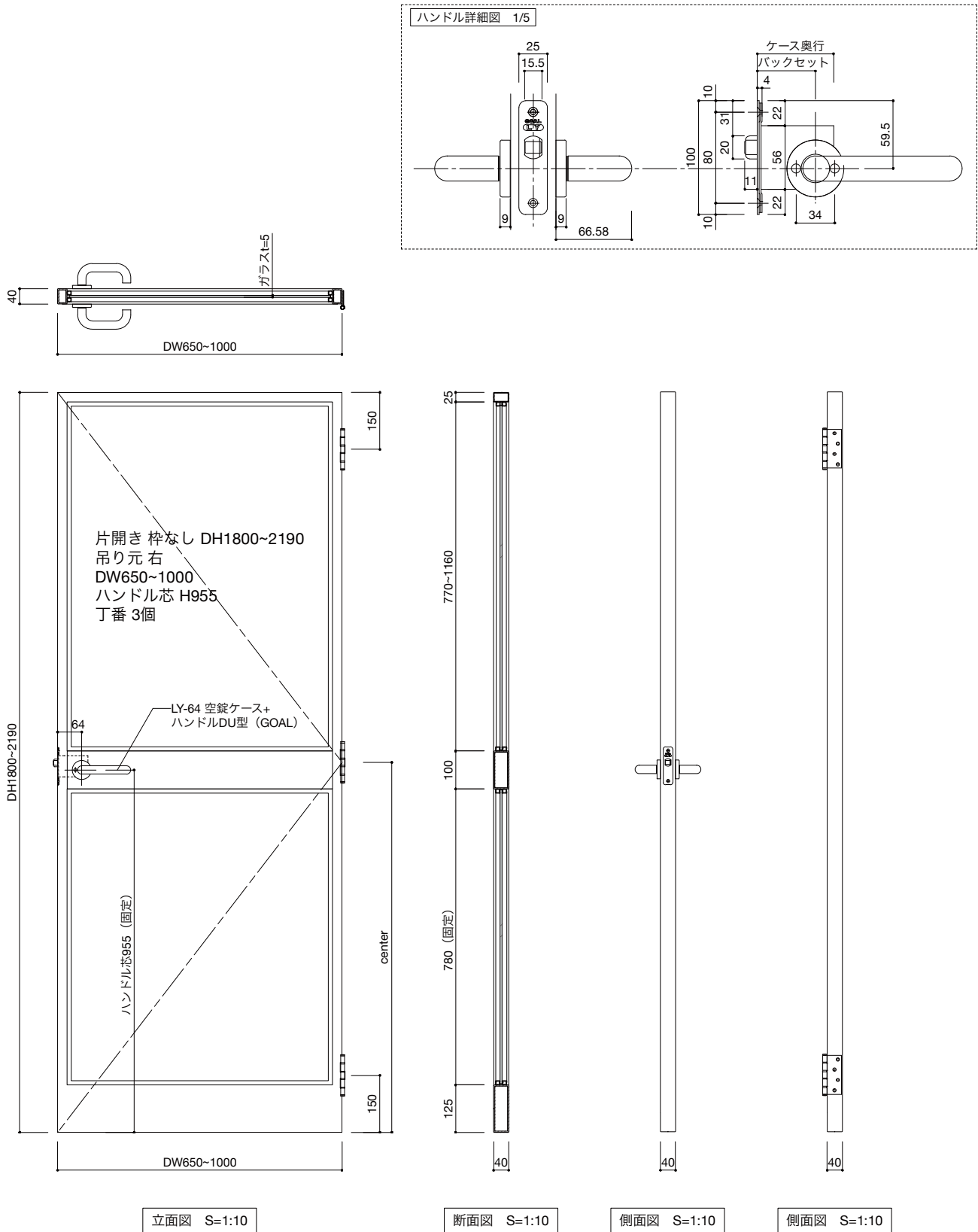
使用環境によっては微細なサビが発生する場合があります。

特に以下の環境ではご注意ください。

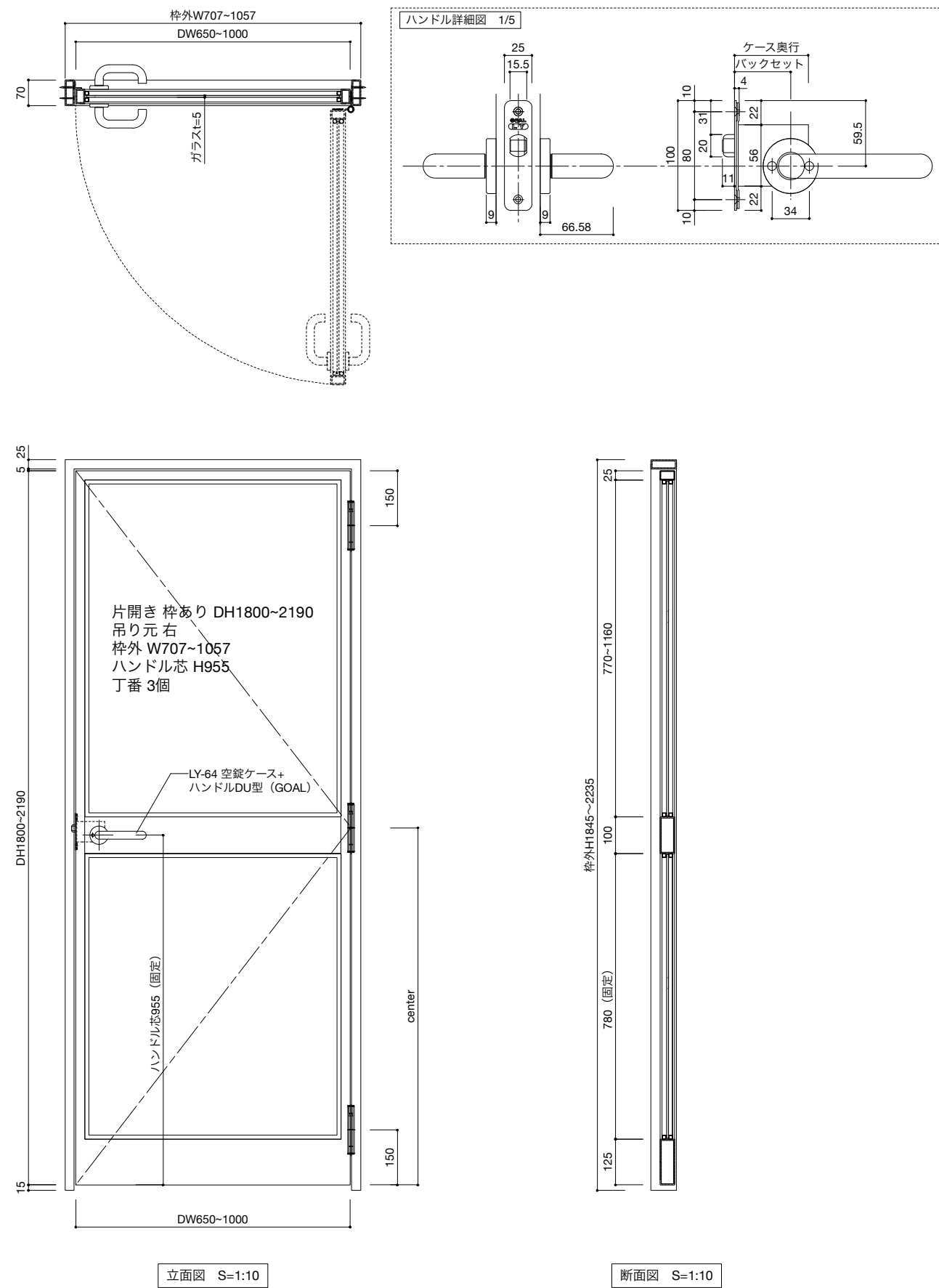
- ・結露が発生する場所
- ・水回り周辺
- ・沿岸地域
- ・高湿度環境

梱包内容

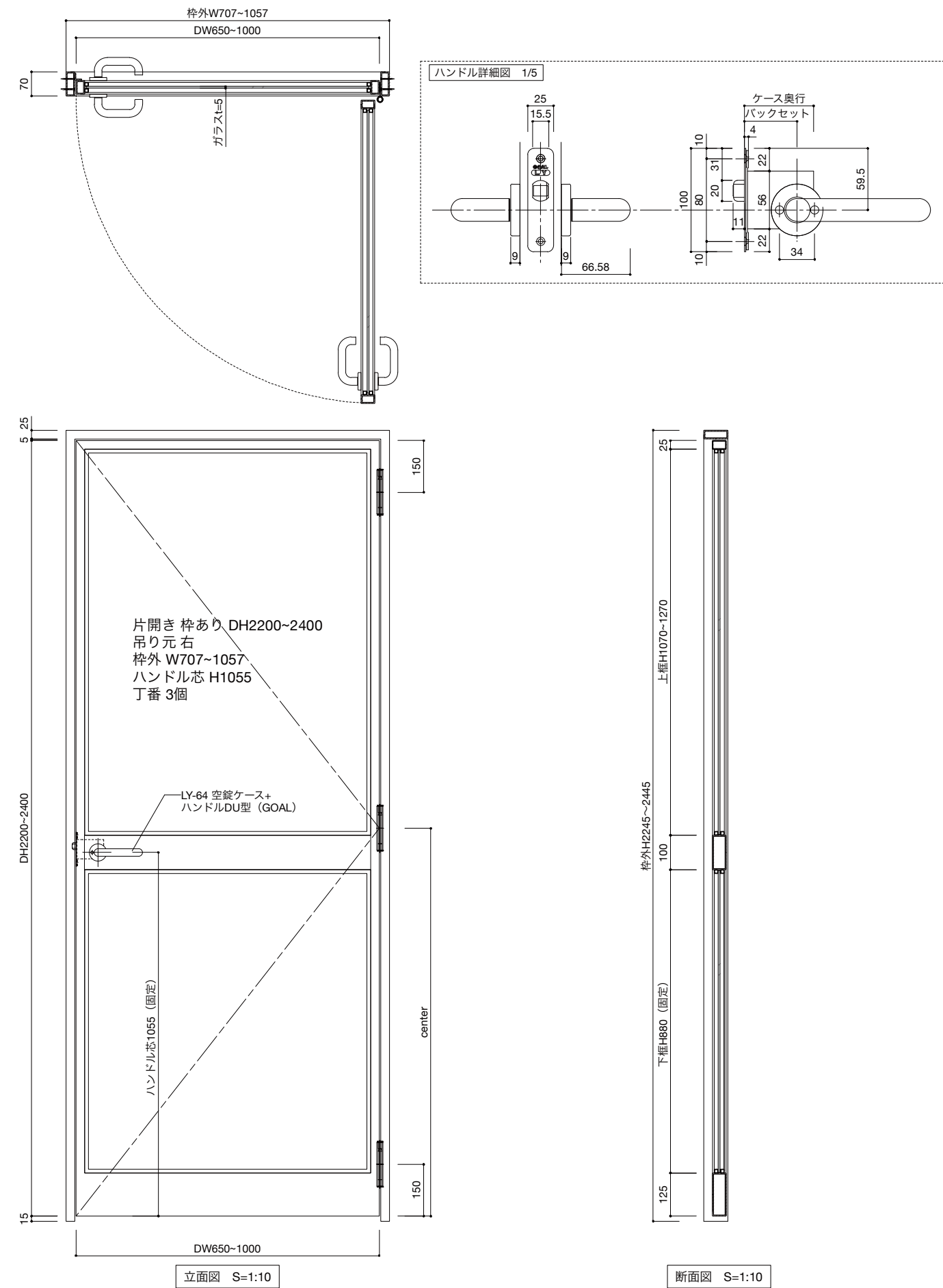
共通	数	備考
建具本体	1 枚	ガラス押縁とオプションアームストッパーはドアについた状態で届きます。
枠（枠ありのみ）	1 台	枠ありで購入された場合は枠が仮組された状態で届きます。
ガラス押縁	1 式	
アームストッパー（オプション）	1 個	
取付用ビス	枠あり M3.6×65mm 12本 枠なし M3.5×25mm 4本×丁番の数	
ドアハンドル	1 式	ストライク受けも付属します。 枠付きは枠に設置された状態で届きます。
ガラスまたはポリカーボネート（別送）	2 枚（上下）	ガラスおよびポリカーボネートは別送となります。



片開きタイプ 固定枠 ガラス H1800 ～ 2190



片開きタイプ 固定枠 ガラス H2200 ～ 2400

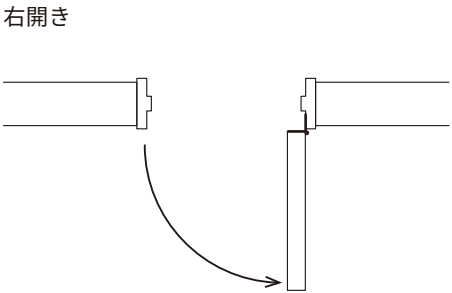


施工前の確認

開き勝手

この【施工説明書】の図は右開き（右吊り元）で記載して

右開き

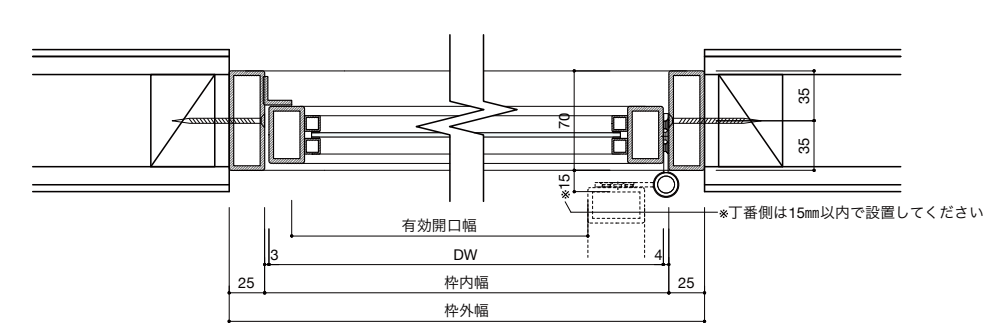


- 枠の有無
 - ガラスまたはポリカーボネートのサイズ
 - アームストッパーの有無（オプション）
 - 開口寸法
 - 搬送中の傷・変形の有無
- ※ 不具合が確認された場合は施工を中止し、販売元へお問い合わせください。

下地条件

枠あり

枠なしの場合は現場で枠をご用意ください。



- 推奨
- ヒンジ固定部には構造用合板12mm×2枚以上または同等以上の補強を設けてください。
 - LGS 下地の場合は十分な補強材を設けてください

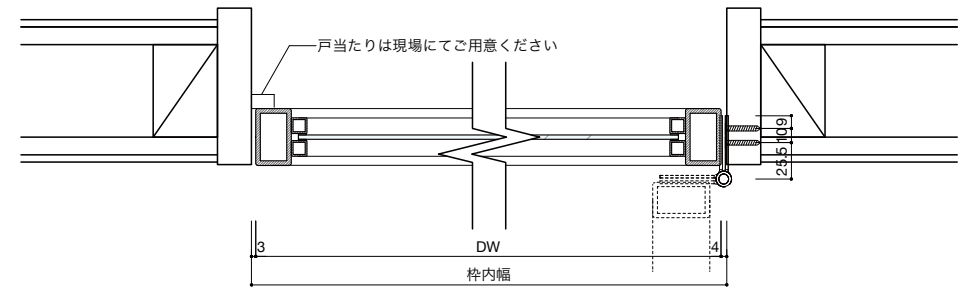
下地精度不足の場合、

- 建付け不良
- 壁クラック
- 建具干涉

が発生します。

枠なし

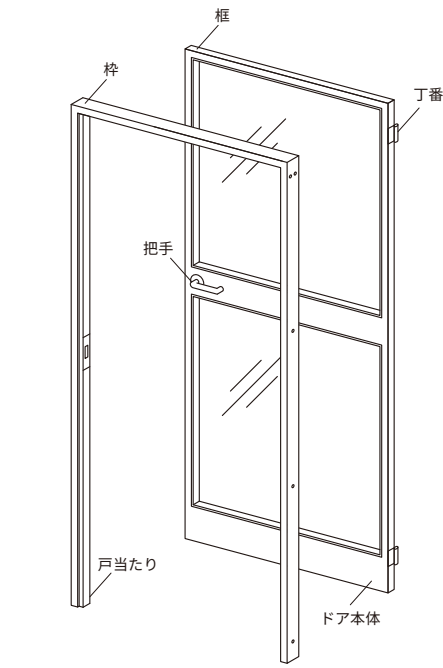
枠を取り付ける前に、木口側を仕上げてください。



施工方法 枠あり

取り付け前の確認

施工前にドアは枠と分離してから作業を行ってください。



1 開口および下地の確認

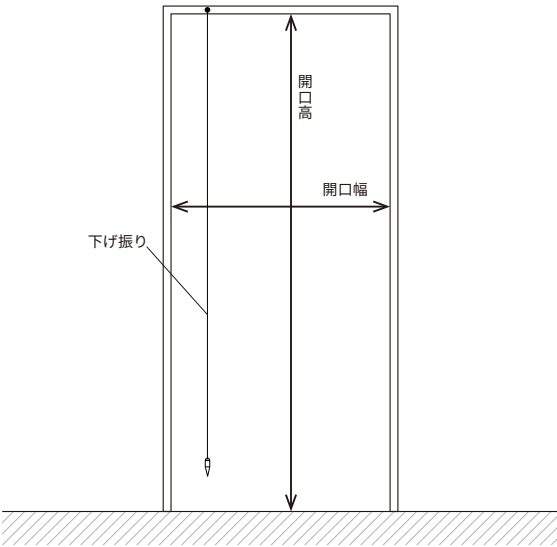
施工図を参照し、開口寸法および下地の位置を確認してください。開口部に歪みや欠損がないことを確認し、枠固定位置に十分な下地が設けられていることを確認してください。（施工前の確認参照）

2 枠の仮固定

開口部に枠を設置し、くさび等を用いて仮固定してください。枠が開口中央に納まるよう位置を調整し、床仕上げ高さおよび壁仕上げ位置を確認してください。

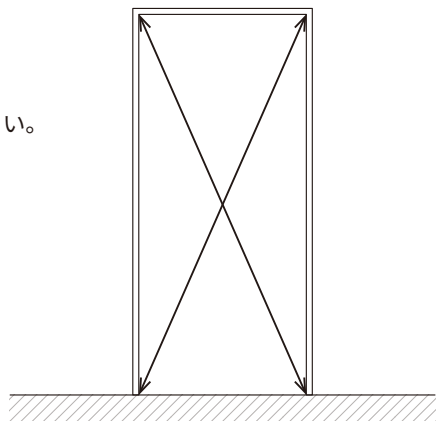
3 垂直・水平の確認

下げ振りや水平器を用いて、たて枠の垂直および上枠の水平を確認してください。枠にねじれや傾きがあると、建具の開閉不良や隙間の不均一の原因となります。



4 対角寸法の確認

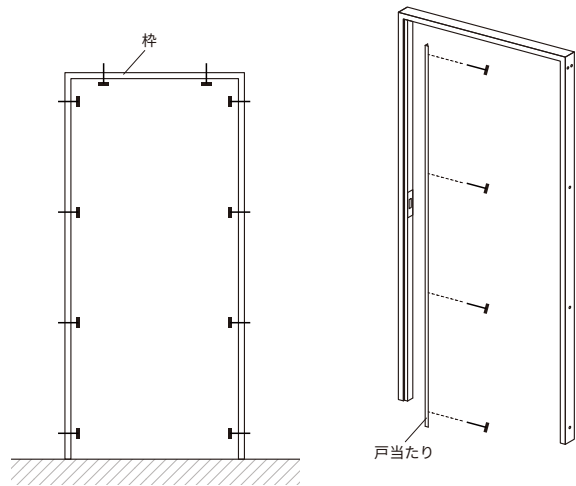
枠の対角寸法を測定し、左右の寸法差がないことを確認してください。
対角寸法に差がある場合は枠が変形しているため、くさび等で調整してください。



5 枠の固定

垂直・水平・対角寸法に問題がないことを確認したうえで、
必要であればスペーサーを用いて調整してください。
(スペーサーは現場手配)

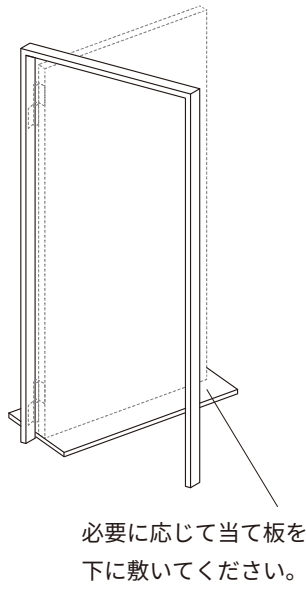
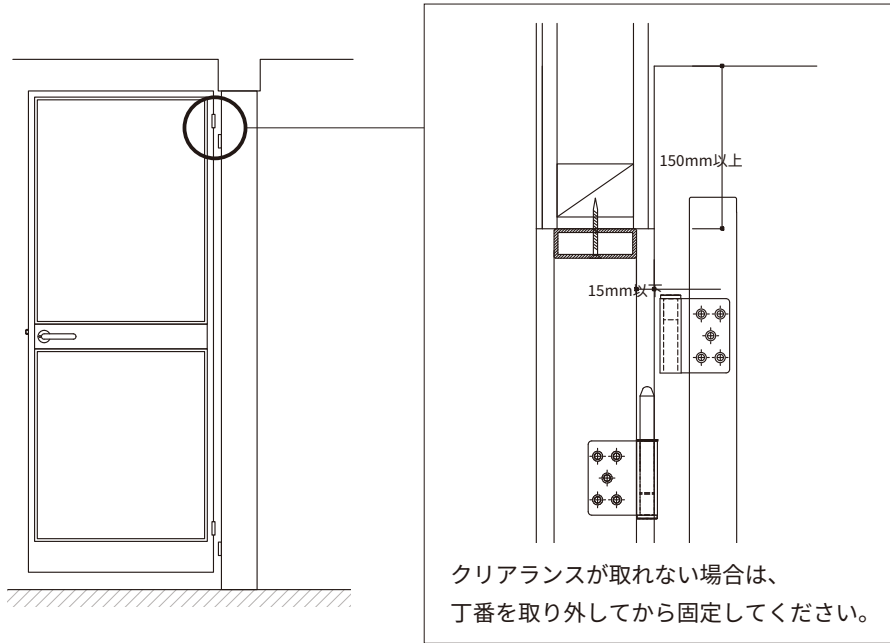
所定の位置をビスで固定してください。固定後は再度、垂
直・水平および対角寸法を確認し、施工中にズレが生じて
いないことを確認してください。



壁に枠を固定した後、
戸当たりをつけてください。

6 建具の吊込み

建具を吊込み、開閉状態を確認してください。

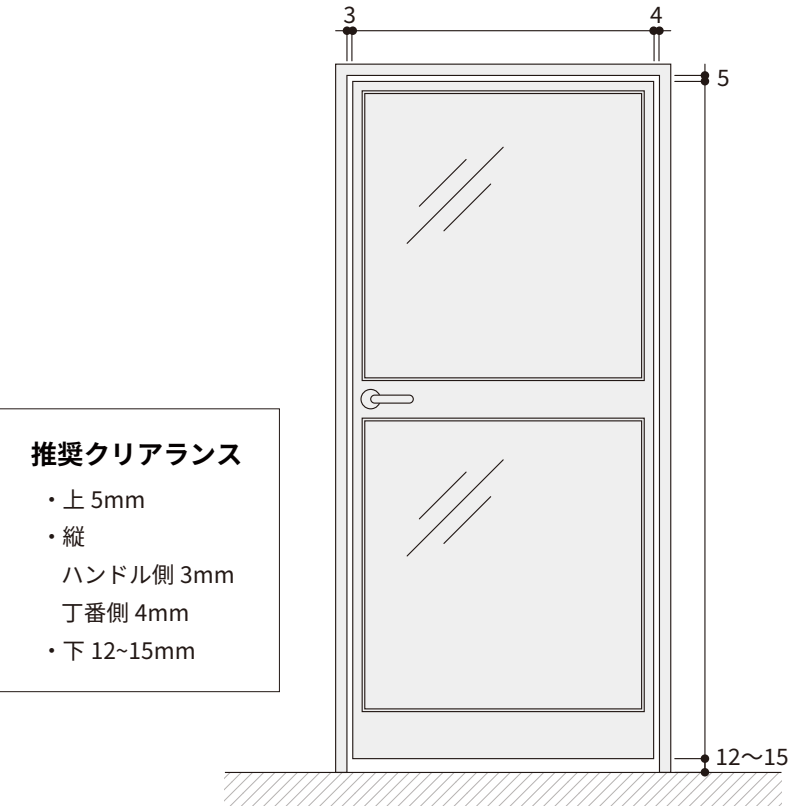


必要に応じて当て板を
下に敷いてください。

7 建付け調整

建具と枠のクリアランスが均一になるよう調整してください。

ドアがキチッとしまるか
ラッチがかかるか
ドアと枠のすき間は適正か



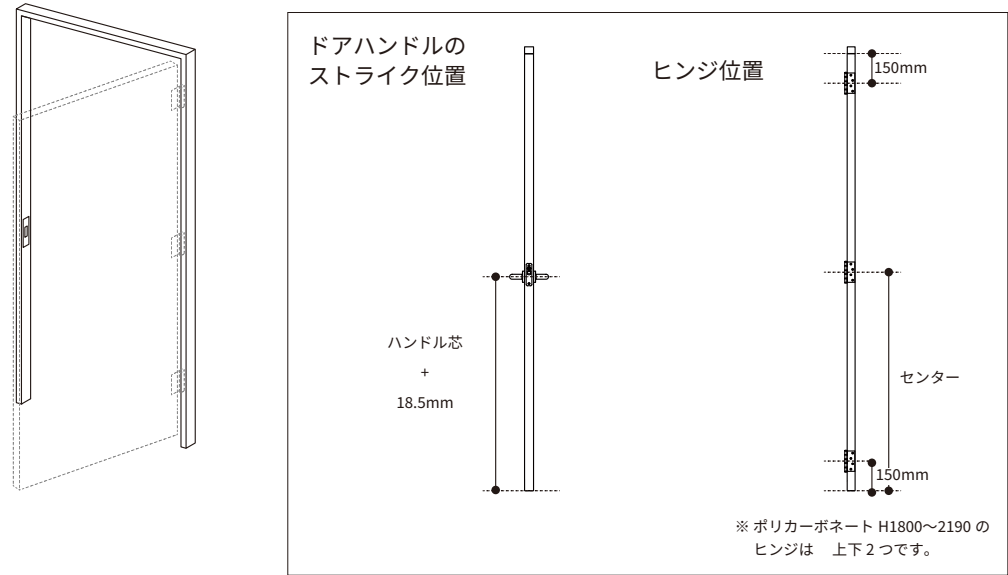
施工方法 枠なし

1 下地の確認

施工図を参照し、ヒンジ取付位置に十分な下地が設けられていることを確認してください。
下地の強度が不足している場合、建具の垂れや開閉不良の原因となります。(施工前の確認参照)

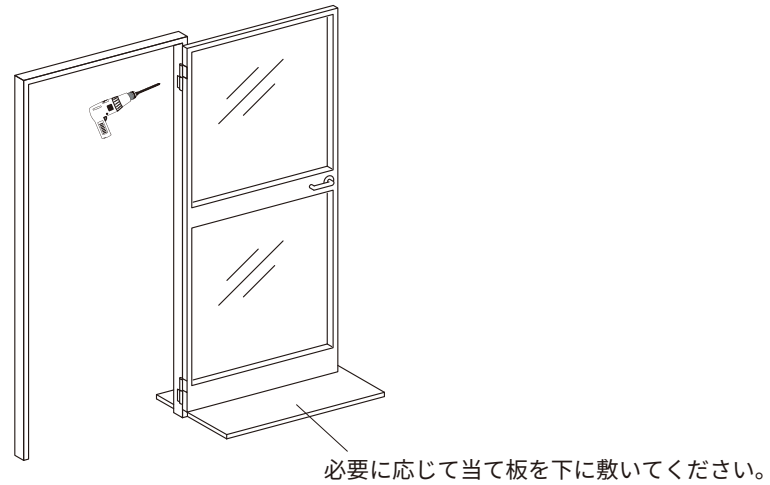
2 取付位置の墨出し

施工図に従い、ヒンジ位置および建具位置を墨出ししてください。床仕上げ高さおよび壁仕上げ位置を確認し、
建具と壁面の納まりを確認してください。
ドアハンドルのストライクの掘り込みも行います。
ヒンジ位置とドアハンドルのストライクの詳細位置は製品図面をご確認ください。



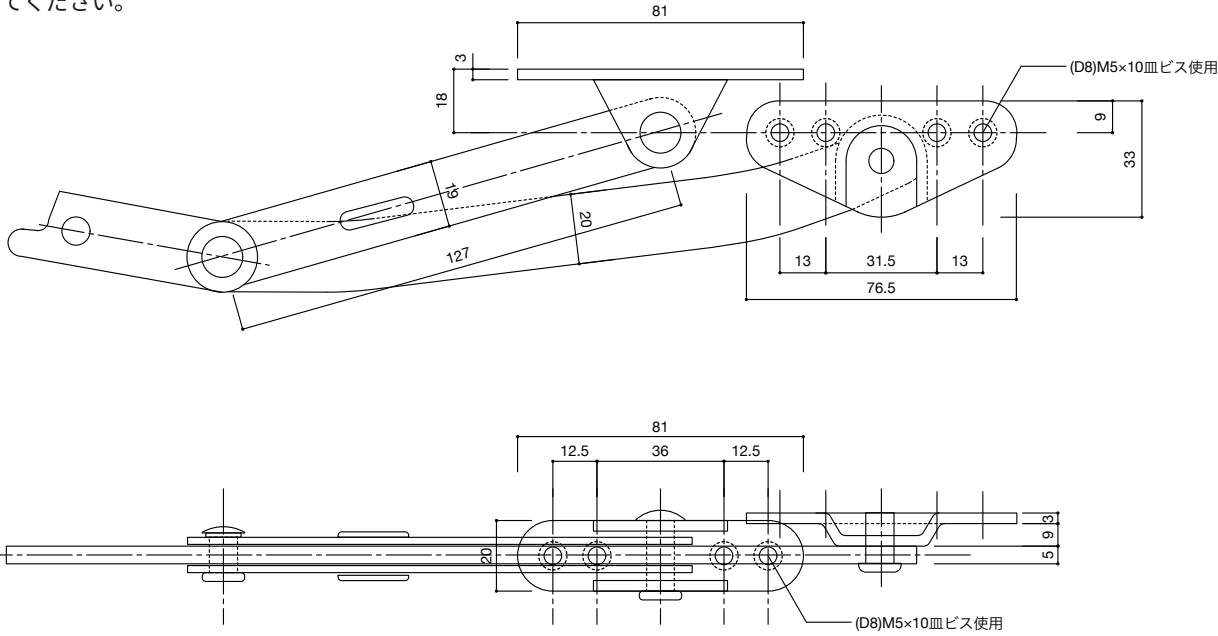
3 ヒンジの取り付け

墨出し位置に合わせてヒンジを固定してください。固定後は取付位置にずれがないことを確認してください。



4 アームストッパーの固定

現場で枠を設置された場合は現場の枠にアームストッパーを
固定してください。

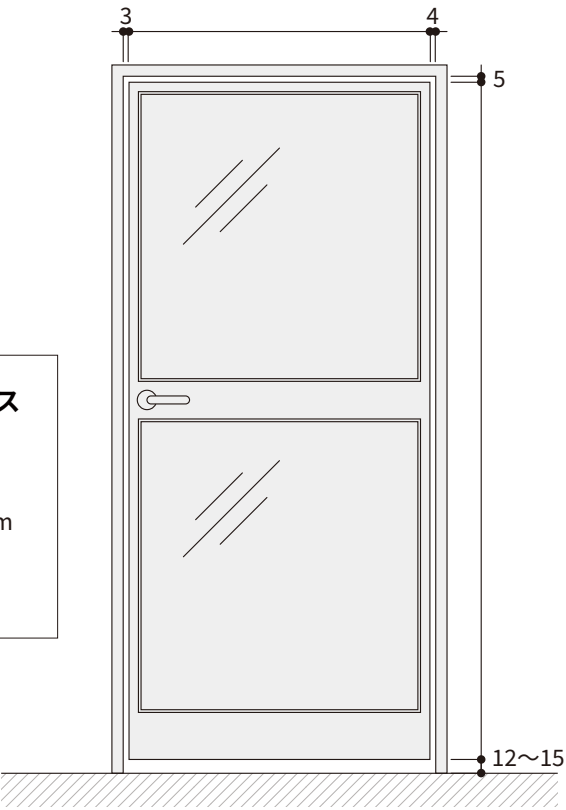


5 建付け調整

建具と壁面のクリアランスが均一になるよう調整してください。
開閉時に壁や床へ干渉がないことを確認してください。

推奨クリアランス

- ・ 上 5mm
- ・ 縦
ハンドル側 3mm
丁番側 4mm
- ・ 下 12~15mm



ガラス・ポリカーボネートの取付

ガラスおよびポリカーボネートは別送です。建具本体の施工
および建付け調整完了後、現場にて取り付けてください。

1 面材の確認

取り付け前に、ガラスまたはポリカーボネートのサイズ・数量を確認してください。あわせて、割れ・欠け・傷・変形がないことを確認してください。

2 押縁の取り外し

建具本体に取り付いている押縁を取り外してください。取り外した押縁およびビスは、再取付時に使用するため紛失しないよう保管してください。

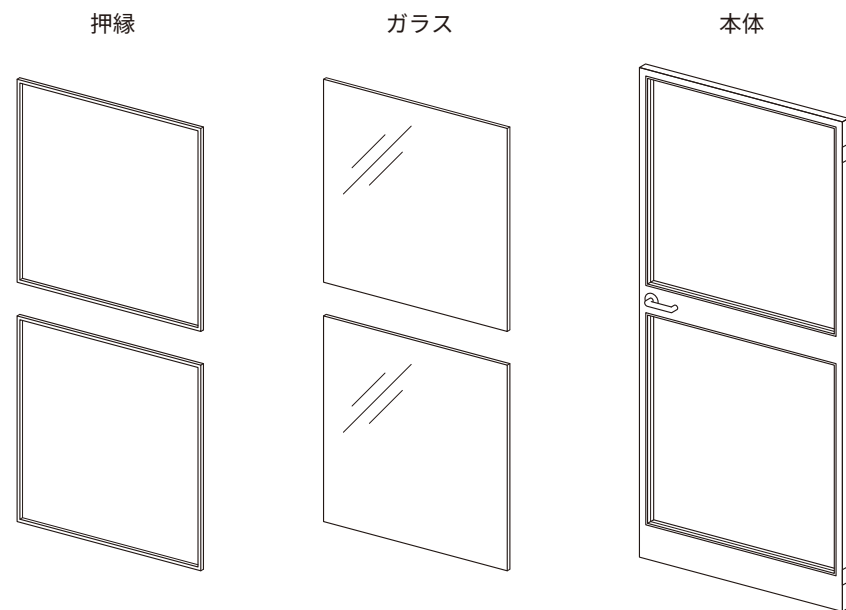
3 面材の設置

ガラスまたはポリカーボネートを建具本体の開口部に設置してください。面材の端部をぶつけたり、無理な力を加えたりしないよう注意してください。

ガラス施工時はガラス吸盤または保護手袋を着用してください。

4 押縁の取付

面材の位置を確認し、取り外した押縁を再度取り付けてください。ビスは締めすぎず、面材に過度な力がかからないよう固定してください。



5 保護フィルムの撤去

施工完了後に、ガラスまたはポリカーボネート表面の保護フィルムを剥がしてください。
施工中は傷防止のため、保護フィルムを付けたまま作業してください。

6 最終確認

面材にガタつきがないこと、押縁が確実に固定されていることを確認してください。
建具を開閉し、面材に異音や干渉がないことを確認してください。

⚠ 注意

- ポリカーボネートは傷がつきやすいため、硬いものや研磨剤でこすらないでください。
- アルコール・シンナー・ベンジン等の溶剤は使用しないでください。

ハンドルの取り付け

本体と丸座はすでに工場で設置された状態で届きます。

取り付けられている本体に角芯付きハンドルを差し込み、もう一方のハンドルも差し込み六角レンチで固定ネジをしっかりと締め付けます。

現場で枠を用意した場合は、枠にストライク受け用の掘り込みをし、ラッチの受け座を取り付けます。受け座の上端が錠フロント上端より 8mm 下がった位置に取り付けてください。（取付型紙参照）

